

令和6年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号 9 学校名 岐阜商業高等学校（全日制）

<p>学校教育目標 (教育方針)</p>	<p>「商業教育」「部活動」「進路達成」への真摯な取り組みを通じてビジネスリーダーたる資質と素養を育み、予測困難な未来をたくましく生き抜く力を身に付けた生徒の育成を目指す。</p>	
<p>3つの方針 (スクール・ポリシー)</p>	<p>どんな生徒を 育てたいか 【GP】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「ふるさと岐阜」への誇りと愛着を育み、清く、優しく、たくましく生きていこうとする心を有する生徒 ビジネスに関する確かな知識・技術を身に付けるとともに、将来、実際の経営活動の場面において、主体的に活用できる能力基盤と素養を有する生徒 地域経済の発展の担い手及び、社会貢献に対する強い意識を育むとともに、次世代のビジネスリーダーになる高い志を有する生徒
	<p>生徒をどう 育てるか 【CP】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 課題発見力、課題解決力を育成するために、すべての教育活動において、「主体的・対話的で深い学び」の推進と創造性を育成 地域や社会など多様な人々と連携・協働して、実学を実践するとともに、地域を創生する意識の涵養と、自己有用感を高める教育活動を推進 実社会や職業との関わりを通して、高い職業意識や規範意識を育むとともに、共生社会に不可欠なコミュニケーション能力の育成のための教育課程を編成
	<p>どんな生徒を 待っているか 【AP】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力を有するとともに、高い志と目的意識をもって学校生活に臨む意欲のある生徒 将来、地域創生のために、ビジネスに関する専門的な知識・技術の習得を目指そうと学習意欲が旺盛である生徒 部活動、生徒会、地域等と連携した探究活動など、仲間とともに積極的に取り組む意欲に溢れるとともに、自らの伸長のために果敢に挑戦しようとする意欲のある生徒
<p>学校の抱える課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> 高度な資格取得を目標としているため授業内容も高度であり、進度も早く設定されているため、理解に苦しむ生徒がいる。 指定校推薦などから進路選択するなど安易に進学先を決める生徒が少なくない。総合型選抜入試や各種推薦入試などへの対策をさらに充実させながら、個に応じた適切な進路指導が必要である。 部活動や授業をとおして、身だしなみやマナーなどを身に付けさせているが、情報モラルやいじめなど、表面的に表れない問題に対して未然防止、早期発見、早期対応を組織的に実践できる体制が必要である。 	
<p>教育指導の重点</p>	<p>領域・分野</p>	<p>今年度の具体的な重点目標</p>
	<p>学習指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着と課題の発見・解決のために、主体的、協働的に学習に取り組む生徒を育成する。
	<p>生徒指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな社会的課題に対応するため、ビジネスマナー及び校則の在り方や指導方法を検討し改善を図るとともに相手を気遣った言動ができる心を育てる。 交通安全、情報モラル、いじめなどの問題に対し、未然に防ぐための指導を行うとともに、生徒の規範意識の向上を図る。
	<p>進路指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> 継続的な学習習慣を身に付け、進路実現のために必要な知識・技術を習得できるよう支援する。 生徒の適性を生かし、社会での役割や自己の在り方を考えて進路選択・決定できるよう組織的な進路指導の充実に努める。
	<p>特別活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本校の教育の三本柱の一つである「部活動日本一」の達成を目標とするとともに、他校にはない「一流の（部）活動」を目指す。 生徒会活動やホームルーム活動および部活動の充実により、各場面におけるリーダーを養成するとともに、自発的に活動をすすめる態度の育成を目指す。

年度目標			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	県教育振興基本計画で の位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標
学習指導	・探究型授業の導入による創造力・課題発見解決力・実践力・協働力・社会適応力の育成。	10	施策Ⅱ-10
	・高度な専門性を身に付けさせる。	14	施策Ⅱ-14
	・中学校との連携・広報の強化・体験入学の充実。	13	施策Ⅱ-13
生徒指導	・生命の安全と人格の尊重とマナーの向上	19	施策Ⅲ-19
	・校則・ビジネスマナーの研究・検証	13	施策Ⅱ-13
	・各種講話・各種アンケートの実施し、早期発見対応を図る	7	施策Ⅰ-7
進路指導	・志望動機・小論文指導の指導体制の確立	8	施策Ⅱ-8
	・進路の手引きや教育プラットフォームを利用した情報提供と意識の高揚	13	施策Ⅱ-13
	・HPや教育プラットフォームを活用した保護者向け進路情報の提供	7	施策Ⅰ-7
特別活動	・生徒自身が各大会等で上位を目指すとともに、仲間や活動環境に対する配慮を意識した活動を目指す	25	施策Ⅳ-25
	・リーダーの養成、自主的・実践的態度の育成 ①生徒会活動の活性化のため、執行部会の充実 ②社会貢献活動の継続および企画	4	施策Ⅰ-4
	・本校の部活動ガイドラインの遵守を目指して活動を続けるとともに、年間・月間計画の生徒、保護者への周知徹底を図る	25	施策Ⅳ-25

年度末評価(自己評価)			
取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合評価 A. B. C. D
・日経ストックリーグではテーマごとにグループを編成するなどゼミ形式で実施し、他クラスの生徒と共に横断的に取り組むことができた。生徒の探究の時間における肯定的意見は75.2%と上昇した。 ・大学・専門学校などの外部講師授業を行い資格取得対策を行った。また、進路講話など、資格を利用した進学や仕事での必要性などを理解させることができた。一人一人に資格取得などの明確な目標を持たせ、その達成に努めているという肯定的な意見についても92.7%と上昇した。	B	【成果】探究活動や課題研究に重点をおき、創造力、課題発見解決力などの向上に努めると共にその成果を総合型選抜入試等の進路実現につなげることができた。また、企業やOBらの協力を得て、効果的なキャリア教育事業を実践することができた。 【課題】専門教科以外の科目において、基礎学力の定着と底上げをはかる必要がある。また、少子化の影響を受けて、今後入学者数の減少が予想される中、中学校との連携強化や広報活動の一層の充実を図る必要がある。	
・交通安全ルール遵守、マナー向上及び情報モラル教育において、各種講話や定期的な集会等を通じて、継続的に啓発していくことができ、生徒の安全指導に関する肯定的な意見は92.6%と上昇させることができた。 ・自転車ヘルメット着用率の向上させることができた。 ・生徒間のいじめ、迷惑行為問題への組織的対応及び初動対応の強化を図ることができた。 ・身だしなみ指導と授業の一環であるビジネスマナーを連携させて指導していくことができた。生徒のマナー指導に関する肯定的な意見についても93.8%と上昇させることができた。	B	【成果】さまざまな生徒指導事案に対して、部顧問、学年団、教育相談部との連携を密にしながら、組織対応、初動対応の強化に努めることができた。 【課題】さまざまな事案に対する組織対応、初動対応の強化に加えて、未然防止教育の充実を図ってきたい。また、近年問題視されている「闇バイト」に関する情報提供や未然教育を実践していきたい。	B
・読解力向上を目的に、朝の30分間を使い新聞要約等を行うST(進路探究)タイムを取り入れた。 ・教育プラットフォーム「Classi」を導入し、生徒のポートフォリオ作成の支援や保護者向けの情報共有に利用した。よって、保護者の閲覧割合を66%と伸ばす共に肯定的な意見は88.9%と上昇させることができた。 ・卒業生を招いて開催した「ホームカミングデー」や「キャリア講演会」等によって進路意識の向上を図った。また、希望者を対象にした小論文補習の「国公立ゼミ」を毎週継続して実施することができた。	A	【成果】総合型選抜入試等に対応するために専門塾である「AOI」と連携し、STタイムを新たに設けることができた。また、教育プラットフォーム「Classi」を導入し、生徒及び保護者との情報共有を密にするとともに進路実現に向けた意識高揚を図ることができた。 【課題】近年、大学進学においては、個々の能力や適正を見極めながら、新しい入試制度に対応した幅広い進路指導を早い段階から取り組ませていきたい。	
・生徒会執行部がインスタグラムを活用して部活動紹介を行うなど、積極的な情報発信を行うことができた。社会に開かれた学校を目指しているという項目における生徒の肯定的な意見は82.5%と上昇させることができた。 ・文化祭等の学校行事において、生徒の声が反映した生徒会活動を実践することができた。 ・表彰伝達・壮行会を毎月実施し、仲間の活躍から刺激を受けることで、学校全体で「部活動日本一」を目指す意識を高めることができた。	B	【成果】さまざまな特別活動において、生徒会が中心となって、HPやインスタグラムなどを有効活用し、地域や中学生に情報を発信することができた。また、コロナ禍で自粛傾向であった学校祭などをさらに充実、発展させることができた。 【課題】生徒会活動のさらなる充実を図ることで、リーダーを育成するとともに、さまざまな教育活動において、生徒の声が反映される体制を構築していきたい。	

来年度に向けての改善方策等

実施日：令和7年2月5日

【学習指導】 高度な専門性を身に付けさせるとともに、特に国語力、英語力の基礎学力の向上に重点を置くことで、総合型選抜入試等の新しい大学入試制度に柔軟に対応していきたい。
【進路指導】 今年度から導入した教育プラットフォーム「classi」の保護者の活用率のさらなる向上に努め、進路情報の共有だけでなく、学習指導、生徒指導、特別活動すべての領域において幅広く有効活用していきたい。
【生徒指導】 長い歴史と伝統を誇る本校の校訓、校風を継承し、時代の変化に対応しつつも、規律・マナー等の社会的規範を身に付けた生徒の育成に努めていきたい。
【特別活動】 生徒会中心のさまざまな教育活動の中において、生徒の声が反映される自主的、実践的態度の育成やリーダーの養成を図ってきたい。

学校関係者評価

実施日：令和7年2月5日

【全日制】 岐阜県では「ふるさと教育」が重視されているところであるが、「県岐商ブランド」というものが岐阜にはあり、それを大切に育てていくことが学校への帰属意識や地域への帰属意識につながっていくと思う。もっと県岐商の強みや県岐商にしかできないことを伸ばしていくと良いのではないかと考える。 スクールミッションについては、いろいろ具現化されており、私どもの意見なども汲み取っていただき改善がなされていると理解している。今年度は県岐商創立120周年記念の周年行事が多くあり、さまざまな行事を通して、あらためて県岐商の歴史と伝統の深さ、あるいは有為な人材を輩出しているということを強く感じた。
【定時制】 集団生活が苦手であるということを学校教育を通じて克服させることも当然必要だが、個性を伸ばしていくという視点も大切であると考える。大人数での一斉授業で運営する日本のこれまでの教育手法が見直されている中で、本校定時制が行っている少人数教育はもっと大胆に実践していても良い時代を迎えたと考える。